

学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤

隆介

めあて

「モチモチの木」を読んであらすじをつかもう。

「モチモチの木」ってどんな木だろう

おもちができる木

やわらかい木

おもちみたいにのびる木

絵をならべてみよう

著作権の関係で掲載できませんが、ここには教科書62～73ページの7枚の挿絵をA4程度 of 用紙に拡大して掲示します。

かんそう

・ どうして「モチモチの木」っていうんだろっ。

・ 豆太はおくびょうなのに、灯のともったモチモチの木をどっつて見ることができたんだろっ。

学習すること

「モチモチの木」を読んで、読書発表会をしよう。

1 / 16 時間目 指導略案

使用するワークシート…

活動のねらい

初発の感想を交流させ、学習の課題を決めることができる。

1 「モチモチの木」の題名から、どんな話を想像する。

題名から物語の内容を想像させることで、物語に興味をもたせる。

【発問】モチモチの木ってどんな木だと思いますか。

2 「モチモチの木」の読み聞かせを聞く。

民話風の語り口を楽しめるように読み聞かせを行う。

3 おおまかなあらすじをつかむ。

自分で全文を読む。

挿し絵の並び替えをする。

4 心に残った場面を中心に、初発の感想を書く。

心に残った場面を中心に、言葉や文を書き出して、感想をワークシートに書くように指示する。

5 感想を交流し、学習課題をもつ。

感想や疑問などを交流させながら、豆太の行動や場面の様子など、詳しく読んでいく必要性を感じさせ、学習課題をもたせる。

\* 読書発表会については、昔話への読み広げを考えて、教師側から提案する形をとるとよいでしょう。他にも、教科書では、学習発表会が例示されています。ここでは、読書発表会を設定していますが、どのような言語活動を取り上げるかは、児童の実態に応じて、決めてください。

学習課題

「モチモチの木」を読んで読書発表会をしよう

評価 「モチモチの木」に興味を示し、意欲的に教材文を読んだり、感想を書いたりする。

学習したことを生かして

名前

めあて

Blank box for writing the goal (めあて).

モチモチの木ってどんな木なんだろう

Blank box for writing notes or observations about the book.

「モチモチの木」を読んだ感想を書きましょう。

Large writing area with vertical dashed lines for writing a reflection on the book.

学習するじゆ

Blank box for writing the learning objective (学習するじゆ).

今日の学習をふりかえりましょう。

できた

だいたいできた

もつ少し

Blank box for writing a reflection on today's learning, with a sub-section for the goal.

モチモチの木を楽しく読むことができましたか。

学習したことを生かして

「モチモチの木」

斎藤

隆介

めあて

読書発表会をする計画を立てよう

学習計画表

一	おくびょう豆太 の場面
二	やい、木い の場面
三	霜月 <sup>しもつき</sup> 二十日のばん の場面
四	豆太は見た の場面
五	弱虫でも、やさしけりゃ の場面
六	読書発表会

漢数字は学習する順番です。「豆太は見た」の場面は、二時間に分けて学習する計画です。読書発表会の前には準備の時間も必要です。

2 / 16 時間目 指導略案

使用するワークシート…

活動のねらい

課題を解決するための学習計画を話し合わせ、学習の見通しをもつことができるようにする。

1 本単元の学習課題を確認する。

モチモチの木を読んで、読書発表会をしよう

2 課題を解決するための学習について話し合う。

【発問】今までの物語文の学習でどんなことをしましたか。

学習の見通しをもつ。

これまでの物語文の学習での経験を思い出させることで見通しをもたせたい。学習計画を立てる。

教科書で分けられている五つの場面ごとに読み取っていく計画を、児童と共に立てていく。

\* 児童の実態を考慮して、学習計画は教師主導で進めてもよいと思います。

3 話し合ったことを整理して、学習計画表に書き込む。

4 本時を振り返り、次時は「おくびょう豆太」の場面を読み取っていくことを確認する。

評価 学習計画について進んで話し合い、学習の見通しを計画表に書くことができる。

# 2

## 学習したことを生かして

名前

めあて

学習の計画を立てましょ。う。

六	五	四	三	二	一

今日の学習をふりかえりましょ。う。

できた

だいたいできた

もつ少し

進んで計画を立てることができましたか。

学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤 さいとう

隆介 りゅうすけ

めあて

夜の豆太は、どんな子どもかを読み取ろう

豆太について

- ・豆太ほどおくびょうなやつはいない
- ・とはは五つ
- ・夜中には一人でしょんべんもできない

教科書62, 63ページの挿絵を貼ってください。

モチモチの木の様子

- ・大きな木
- ・つつ立っていて
- ・空いつぱいのかみの毛
- ・バサバサとふるって
- ・両手を「わあっ。」とあげる

じさまの気持ち

- ・どんな小さな声で言っても…すぐ目をさましてくれる。
  - ・かわいそうで、かわいかった。
- それなのに、豆太はおくびょう

3 / 16 時間目 指導略案

使用するワークシート…

活動のねらい

夜の豆太の様子から人物像をとらえさせ、豆太に共感できるようにする。

1 初発の感想の中から、「おくびょう豆太」に関するものを確認する。

2 めあてを確認し、「おくびょう豆太」の場面を音読する。

初発の感想からめあてにつなげるようにする。

3 豆太の人物像について考え、交流する。

どんな子どもか分かるところを文中から抜き出し、ワークシートに書く。  
豆太についてまとめたことをグループや全体で話し合う。

【発問】豆太は、どうして一人でせつちんに行けないのでしょうか。

豆太がせつちんに行けない理由から、モチモチの木の様子を読み取らせる。さらに、木の様子を押さえることで、おくびょう豆太に共感できるようにする。

4 じさまの思いを読み取る。

【発問】じさまは、おくびょう豆太のことをどう思っているでしょう。

じさまの気持ちに分かる言葉から、豆太に対する気持ちを想像させる。  
最後の一文「それなのに、豆太はおくびょう」に着目させ、じさまの思いとは反対の豆太をとらえさせる。

5 おくびょう豆太の場面で心に残ったことや思ったことを付せんに書いて、ワークシートに貼り、本時のまとめをする。

評価 豆太のおくびょうな様子を読み取ることができる。

めあて

--

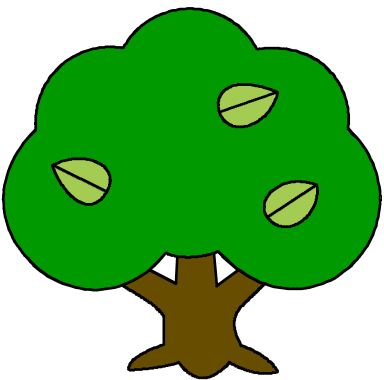
豆太がどんな子どもかが分かる言葉をぬき出しましょう。

--

豆太は、どうして一人でせっちゃんに行けないのでしょうか。

--

モチモチの木の様子が分かる言葉をぬき出しましょう。

	
---	--

今日の学習をふりかえりましょう。

分かった

だいたい分かった

もう少し

豆太はどんな子どもか分かりましたか。

--

学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤

隆介

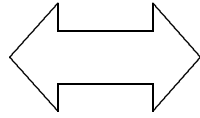
めあて

昼間と夜の豆太の様子を読み取る

豆太

- 昼
- ・「やい、木い、モチモチの木い、実い落とせえ」
  - ・木の下に立って
  - ・かた足で足ぶみして
  - ・いばってさいそくする

- 夜
- ・夜になるともうだめなんだ
  - ・木がおこって、両手で、「お化けえ」っておどかす
  - ・モチモチの木を見ただけで、もっ、しょんべんなんか出なくなっちゃまう



実際のモチモチの木

でっかいでっかい木  
茶色いびかびか光った実をいっぱいふり落としてくれる  
実で作ったモチは、ほっぺたが落っこちるほどごまい

さいごの一文

でも、豆太はそうしなくちゃだめなんだ。

4 / 16 時間目 指導略案

使用するワークシート…

活動のねらい

豆太が昼間と夜とではモチモチの木に対する態度が違つことを、豆太の言動やまわりの様子をあらわす言葉に着目しながら、想像豊かに読み取ることができる。

1 夜の豆太の様子を振り返る。

2 「やい、木い」の場面を音読する。

初発の感想からめあてにつなげるようにする。

3 豆太の言った言葉から昼と夜の豆太の違いを考える。

【発問】豆太の様子や気持ちに分かる言葉を抜き出しましょう。

抜き出した後に、「豆太の昼の気持ちや様子には」「夜の気持ちや様子には」「を付けさせる。

【発問】昼間の豆太と夜の豆太はどんな違いがあるのでしょうか。

『「やい、木い、モチモチの木い、実い落とせえ。」なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足ぶみして、いばってさいそくしたりする』と『木がおこって、両手で、「お化けえ。」って、上からおどかすんだ。』の二文から豆太の昼間と夜の様子の違いを考えさせる。

自分の考えをワークシートにまとめる。  
まとめた考えをグループや全体で交流する。

4 実際のモチモチの木について読み取る。

実際のモチモチの木と豆太の心の中のモチモチの木を比べさせたり、最後の一文に着目させたりすることで、豆太がおくびようであることを確認させる。

5 本時のまとめとして、「やい、木い」の場面で心に残ったことや思ったことを付せんに書き、ワークシートに貼っておく。

評価 昼間と夜の豆太の態度の違いを読み取ることができる。

めあて

--

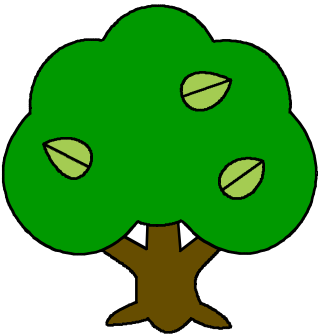
豆太の様子や気持ちが分かる言葉をぬき出しましょう。

--

昼間と夜の豆太はどんな違いがあるのでしょうか。

--

じっさいのモチモチの木の様子分かる言葉をぬき出しましょう。



--

今日の学習をふりかえりましょう。

分かった

だいたい分かった

もう少し

昼と夜の豆太の様子のちがいが分かりましたか。

--



学習したことを生かして

「モチモチの木」

さいとう 斎藤

りゅうすけ 隆介

めあて

霜月二十日のばんとは、どんなばんなのかを読み取る

霜月二十日のばん

モチモチの木

- ・ 灯がともる
- ・ うしみつとき
- ・ 神様のお祭り
- ・ ゆめみてえにきれい

見ることのできる人

- ・ 一人の子ども
- ・ 勇気のある子ども



- ・ じさまも見たことがある
- ・ おともも見たそう

豆太

- ・ 「それじゃあ、おらは、とつてもだめだ」
- ・ ちっちゃい声で、なきそうに言った
- ・ 自分も見なかったけど、とんでもねえ話だぶるぶるだ
- ・ 昼間だったら、見たい
- ・ はじめっからあきらめた

豆太の気持ち

- ・ こわくてできない。
- ・ じしんがない
- ・ 見たいけど、見られない。

5 / 16 時間目 指導略案  
活動のねらい

使用するワークシート…

霜月二十日のばんのモチモチの木や豆太の様子を読み取らせ、豆太はどんなことを思っていたのかを想像させる。

1 豆太がどんな子どもだったかを振り返る。

2 「霜月二十日のばん」を音読し、灯のともったモチモチの木の様子と、それを見ることが出来る条件について読み取る。

「山の神様のお祭り」とはどんな祭りなのかを確認させる。  
灯のともったモチモチの木の様子について文中から抜き出す。

じさまとおとも見たモチモチの木を見ることが出来る子どもについて、文中から抜き出す。

3 霜月二十日のばんに、豆太の取った行動について考える。

豆太の取った行動が分かる言葉を抜き出す。

【発問】山の神様のお祭りについて豆太はどんなことを思ったでしょう。

豆太の気持ちを想像する。  
想像した豆太の気持ちについて、全体で交流する。

じさまの豆太に対する気持ちも押さえながら、見たいけれども、見れない豆太のおくびょうなところをとらえさせる。

4 「霜月二十日のばん」の豆太に手紙を書く。

「はじめっからあきらめて」寝てしまった豆太を勇気付ける手紙を書かせる。

5 心に残ったことや思ったことを付せんに書き、本時のまとめをする。

評価 霜月二十日のばんのモチモチの木や豆太の様子を読み取り、豆太の気持ちを想像することができる。

5

学習したことを生かして

名前

めあて

Blank box for writing the goal (めあて).

灯のともったモチモチの木について

モチモチの木の様子を  
ぬき出しましょう。

Blank box for drawing the tree from the book.

見ることができる人は  
どんな人でしょう。

Blank box for drawing people who can see.

豆太の様子が分かる言葉をぬき出しましょう。

Blank box for drawing words that describe Mame-ta's appearance.

豆太の気持ち

Blank box for drawing Mame-ta's feelings.

豆太に手紙を書こう。

Large blank box for writing a letter to Mame-ta.

今日の学習をふりかえりましょう。

できた

だいたいできた

もう少し

豆太の気持ちをそつぞつする事ができましたか。

Small box for a self-reflection or answer.

学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤

隆介

めあて

豆太は、どんな様子で医者さまをよびに行ったのかをそつごつししよう

医者さまを呼びに行く豆太の様子

- ・小犬みたいに体を丸めて
- ・表戸を体でふつとばして
- ・ねまきのまんま
- ・はだしで

豆太の気持ち  
 ・じさまはだじょうぶかな  
 ・早くよびに行かないとじさまがあぶない  
 ・こわい

一面の真っ白い霜  
 雪みたい

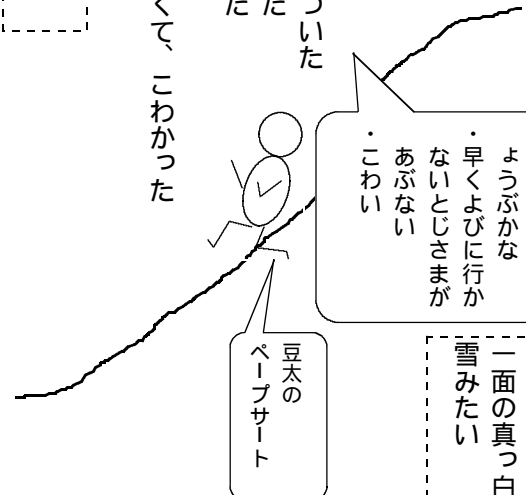
- ・霜が足にかみついた
- ・足から血が出た
- ・なきなき走った
- ・いたくて、寒くて、こわかった

すい星  
 月

豆太はどつして、「なきなき走った」のでしょつ。

豆太の気持ち

- ・じさまが心ばいだつたから。
- ・こわかつたから。
- ・心ぼそかつたから。



6 / 16 時間目 指導略案  
 活動のねらい

使用するワークシート…

豆太が医者さまを必死に呼びに行く様子や気持ちを読み取らせる。

1 「霜月二十日のばん」の豆太の気持ちを振り返る。

前時に書いた豆太への手紙を基におくびょうな豆太について押さえる。

2 「豆太は見た」70ページ13行目までを音読する。

3 医者さまを呼びに行く豆太の様子が分かる言葉を抜き出し、豆太の気持ちを考える。

【発問】 医者さまを呼びに行く、豆太の様子が分かる言葉を抜き出しましょう。

豆太の様子が分かる言葉を抜き出す。

児童が抜き出した言葉は、情景を補足しながら分けて板書する。

医者さまを呼びに行く豆太の気持ちを想像する。

【発問】 豆太はどうして「なきなき走った」のでしょつ。

豆太が泣いている理由について自分の考えをもつ。

豆太が泣いている理由について全体で交流する。

前時までの豆太の様子と比較させながら、豆太の泣いている理由を考えさせる。

4 本時の学習を振り返る。

黒板に書いた坂道を豆太のペープサート（教科書の挿絵を活用したもの）を動かすことにより、医者さまを呼びに行くときの豆太の気持ちに共感させ、本時の学習を振り返らせる。

本時のまとめとして、心に残つたことや思つたことを付せんに書かせ、ワークシートに貼らせる。

評価 豆太が医者さまを必死によびに行く様子や気持ちを読み取ることができる。

めあて

医者さまをよびに行く豆太について

豆太の様子が分かる言葉をぬき出しましょう。

豆太はどうして「なきなき走った」のでしょうか。

## 豆太の気持ち

今日の学習をふりかえりましょう。

できた

だいたいできた

もう少し

医者さまをよびに行く豆太の気持ちをそつぞつすることが  
できましたか。

学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤

隆介

めあて

豆太はどうして灯のともったモチモチの木を見るこ  
とができたのか読み取るう

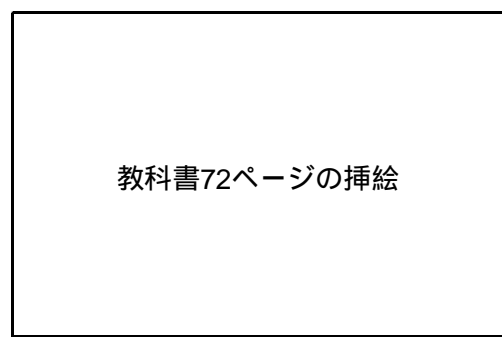
医者さまをつれて来るときの様子

【豆太が見たもの】

- ・月
- ・この冬はじめての雪
- ・灯（ひ）がついている
- モチモチの木

【医者様が見たもの】

- ・とちの木
- ・ちよつと月が出て
- えだの間に星が光っている
- ・雪がふって、明かりがつい
- たように見える



豆太が灯のともったモチモチの木を見ることができたわけ

- ・勇気を出して、医者さまをつれてきたから。
- ・じさまのためにがんばったから。
- ・こわかったけど、がんばったから。

豆太が「その後は知らない」のはどうしてでしょう。

- ・じさまのことが心配だから。
- ・じさまのことにいっしょうけんめいで
- 忘れていたから。
- ・じさまをかんびょうしていたから。

7 / 16 時間目 指導略案 使用するワークシート…  
活動のねらい

豆太が灯のともったモチモチの木を見ることができた理由を、  
叙述を基に想像させる。

1 豆太が必死に医者さまを呼びにいった様子を振り返る。

2 「豆太は見た」70ページ14行目を音読する。

3 豆太が見たものをワークシートにまとめる。

【発問】 医者さまをつれて来るとき、豆太は何を見たでしょう。

豆太が見た二つのものについて、「見た」という言葉に着目させ文中の叙述を  
基にワークシートに書かせる。

医者さまが見たものと比較させることで、モチモチの木は、見る者によって変わ  
ることに気付かせる。

4 豆太がじさまを思う気持ちを読み取る。

【発問】 豆太が「その後は知らない」のはどうしてでしょう。

「その後は知らない」理由について文中の言葉から、じさまに対する思いを読み  
取らせる。

「その後は知らない」理由について自分の考えをもつ。  
全体で交流する。

5 本時のまとめとして、心に残ったことや思ったことを付せんに書き、ワークシート  
に貼る。

評価 豆太がモチモチの木を見ることができた理由について叙述を基に想像すること  
ができる。

めあて

医者さまをつれて来る時の様子

豆太が見たもの

医者さまが見たもの

豆太はどうして灯のともったモチモチの木を見ることができたのでしょうか。

豆太が「その後は知らない」のはどうしてでしょうか。

今日の学習をふりかえりましょう。

できた

だいたいできた

もう少し

豆太がモチモチの木を見ることができたわけをそつそつすることができましたか。

学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤

隆介

めあて

取ろう  
じさまは、豆太のことをどう思っているのかを読み

「弱虫でも、やさしけりゃ」



- ・何でもできるんだ。
- ・勇気が出てくるんだ。
- ・やらなきゃならねえことは、きつとやるんだ。
- ・強くなれるんだ。

【じさまの思】

「は、は、は。」

教科書73ページの挿絵

むかし話の言葉

しょんべんにじさまを起こしたとき。

8 / 16 時間目 指導略案 使用するワークシート…  
活動のねらい

じさまの言葉を手掛かりに、やさしさと勇気について、じさまが豆太に伝えたかったことを想像させる。

1 灯がともったモチモチの木の様子を振り返る。

2 「弱虫でも、やさしけりゃ」を音読する。

3 じさまが豆太をどう思っているのか考える。

【発問】じさまは豆太のことをどう思っているのでしょうか。

会話文の中の叙述を基に自分の考えをもたせる。

「は、は、は。」と笑ったじさまの様子に着目させ、豆太の成長を喜ぶじさまの気持ちを想像する。

じさまの言葉から豆太に伝えたかったことを想像させ、「弱虫でも、やさしけりゃ」の後の言葉を考える。

全体で交流する。  
物語全体を通して、豆太の行動を振り返らせるとともに、昔話の語り口についてもおさえる。

4 学習のまとめをする。

本時のまとめとして、心に残ったことや思ったことを付せん書き、ワークシートに貼る。

評価 じさまの言葉や豆太の行動から、豆太に対するじさまの気持ちを想像することができる。

めあて

--

「は、は、は、は。」とわらった時、じつはどんな気持ちだったのでしょうか。

「は、は、は、は。」

--

「弱虫でも、ちやこけりゃ」の後には、どんな言葉が続くのでしょうか。

弱虫でも、ちやこけりゃ・・・

--

今日の学習をふりかえりましょう。

できた

だいたいできた

もう少し

回答に対するご自身の気持ちをそのようにする「ことができ了吗か。

--



学習したことを生かして

「モチモチの木」

齋藤 隆介

めあて

「モチモチの木」の読書発表会をしよう

一 読書カードを書こう



授業で書いた付せんの中から、友だちにしようかいいたいことをえらんで書きます。

二 読書発表会をしよう  
発表会の仕方

二人組でそれぞれのかんそうを発表する。相手にしつもんをする。発表を聞いて、相手にかんそうをつたえる。みんなでかんそうの発表会をする。みんなで発表会の感想をつたえ合う。

作者の他の作品

- ・「ソメコとオニ」
- ・「かみなりむすめ」
- ・「半月村」
- ・「ひさの星」
- ・「八郎」
- ・「花さき村」

9・10/16 時間目 指導略案 読書カード

活動のねらい

「モチモチの木」の読書発表会を通して、作者の作品に関心をもたせる。

1 モチモチの木の読書カードを書く。

読み取りの過程で書かせた付せんを基に、モチモチの木の読書カードを書かせる。読書カードに書かせる内容は、書名 紹介文(心に残ったことや思ったこと)とする。

2 モチモチの木の読書発表会をする。

二人組で、それぞれ感想を発表する。お互いに質問をし合う。発表を聞いての相手に感想を伝える。全体で発表会を行う。全体で発表会の感想を交流する。

学級の人数に応じて、二人組でなく、グループで発表し合ったり、始めから全体で発表し合ったりしてもよいでしょう。

3 作者の齋藤隆介の他の作品について知る。

・「ソメコとオニ」  
・「かみなりむすめ」  
・「半月村」  
・「ひさの星」 など  
発表会が終わったら、教室や図書館などにコーナーを作って、読書カードを掲示して紹介するとよいと思います。

\* 本は、地区の図書ネットワーク等を利用して事前に集めておくともよいでしょう。

4 作者の他の作品を読んで、読書発表会を知ることを知る。

評価 友達の発表に対して、意欲的に質問したり、感想を言ったりしようとしている。



学習したことを生かして

めあて

齋藤隆介さんの作者の他の作品を読んで、読書発表会をしよう

一 作者の他の作品を読もう

場面ごとに、心にのこったことや思ったことを書いていく。

二 読書カードを書こう

おすすめの本

( 著者 )

☆ 書名

☆ しょうかい

---



---



---



---

付せんに書いた心へのこったことや思ったことの中から友達につたえたいことをえらんで書きます。

三 読書発表会の練習をする

四 読書発表会をしよう

発表会の仕方

グループでそれぞれのかんそうを発表する。相手にしつもんをする。  
発表を聞いてかんそうをつたえる。  
グループの代表が全体で発表する。  
みんなで発表会をしたかんそうをつたえ合う。

11 ~ 16 / 16 時間目 指導略案 読書カード

活動のねらい

齋藤隆介の他の作品を読んで読書発表会をさせることで、昔話に興味をもたせる。

1 齋藤隆介の作品を読んで、読書カードを書く。

「モチモチの木」で書いた読書カードを想起させ、本を読みながら付せんに「心のこったこと」や「思ったこと」を書かせるようにする。

付せんに書いたものから、読んだ本の読書カードを書かせる。

評価 齋藤隆介の作品を進んで読もうとしている。

2 読書発表会の練習をする。

二人組で発表の練習をさせながら、付加修正させる。

3 齋藤隆介の他の作品を読んだ感想を交流する。

グループ内で、それぞれ感想を発表する。

お互いに質問をし合う。

発表を聞いての感想を伝える。

グループの代表が全体で発表する。

全体で発表会の感想を交流する。

\* 集まった本の種類や学級の実態に応じて、発表会の形態を工夫されるとよいでしょう。

6時間の流れと配分時間(モデル)

- ・個人読書と読書カード作成 4時間
- ・グループ内交流 1時間
- ・全体交流 1時間

4 学習のまとめをする。

齋藤隆介の作品から、昔話独特の表現などにふれられることで、昔話を読もうと興味をもたせる。

評価 友達の発表に対して、意欲的に質問したり、感想を言ったりしようとしている。

